

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライラック		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心理士、SW、児童指導員、保育士など、様々な専門職等が、クラスの職員がチームで、子どもたちの対応ができる事です。	保護者の意見だけでなく、子どもたちの意見を取り入れ、活動や個別支援計画に反映させているところです。	個別支援会議、保護者の話をよく聞けるように、年2回の個別支援計画の変更を継続して行います。
2	上記のチーム対応が、子ども、家族の支援のために、ケース会議、家族支援会議など、連携がしやすいところです。	定期的なケースカンファレンス、臨時の家族会議など、子ども、保護者のニーズに合わせて、チーム対応できることです。	ニーズを聞き取るために、職員が直接の会話、電話などで細かく聞くことを配慮する必要があります。
3	子どもの気持ちに寄り添った支援をしている。集団活動を行う中で、必要に応じ個別時間もとり入れ、子どもの安心感、自信に繋がるような工夫を行っています。安心感、自信は、大人や友達との関係性を良好な方向へと導きます。ひとりひとりの個性を肯定的に大切にしています。	帰宅してすぐに行うフロントでのスキル練習の段階で子どもの様子を職員間でまめに共有し、ミーティングや活動での具体的な支援を臨機応変に変化させています。特に職員間のその日対応の統一を意識しています。	子どもによって特性、特質、子どもの動きを想定した対応時の役割分担を具体的に前もって決め練習をしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	目の前に道路があるので、外活動の時に注意が必要で、職員が先に出たり、先頭中間最後を意識して、活動に入る必要があります。	ドアを開けると、道路というのは変えられないので、ドアに必ずカギをかける、職員がドアを開閉した時には、声をかけることを実行しています。	子どもたちと外に出る時は、手をつなく、声をかける、予防して練習するなどの手立てが必要です。
2			
3			